



『3回目の休園』

職員から陽性者が1名出て、疫学的調査を経て、7月29日30日31日は感染予防と安全確認のため休園という決断を行いました。陽性者が1名で濃厚接触者がいなくても、デルタ株の感染力を考えると命と安全を守るため休園しなければなりません。皆さまに多大なるご迷惑をおかけしました。この間、お仕事にでた影響を考えると心が苦しくなります。そして、園に対し思うことはたくさんあったことと推察していますが、皆さまにはこらえていただきました。ご理解とご協力を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

疫学的調査では、1月の休園でも今回の休園でも「足立区のコロナマニュアルに基づいて対策を行っている」と認められました。園職員は、通常の業務に加えて消毒作業その他新型コロナ対策を行っております。幼稚園児の保育活動と、コロナ対策を同時並行で行うことで、業務は増えています。それを補うために、短時間職員の勤務時間を増やし消毒にあたってもらう、3月には業務用加湿器を0.1.2歳児室とホールに設置工事を行うなど、工夫を積み重ねてきました。それでも今回の休園が発生しました。

1回目の休園は、令和2年の4月～5月。これは足立区が緊急事態宣言に伴い、全保育園を休園にするという判断で実施されました。2回目は令和3年の1月。職員から陽性3名が出たことでの2週間休園。3回目は7月末日の3日間、今回の休園です。2回目は我が園の保育だけが実施できない、職責を果たせない、子ども達や保護者の皆さまに申し訳ない。このように考えると心が潰れてしまいそうでした。ですが、園職員49名は全員で、新型コロナ対策と通常の保育に、奮闘してきました。職員は自責の念にかられる必要はありません。このままでは、保育園で働く者が少なくなってしまうのか。責任の重さにこの職業を目指す者も減ってしまうのではないのか。さらに、休園は3回目で終わりではなく、4回目5回目6回目…があると想定すべきです。つまり休園に子どもたち、保護者の皆さま、職員で、慣れていかなければなりません。

2回目の休園の時、「特別休暇の付与があり有休が減らされることも無かった、給与も減らされなかった」という方と、「有休対応で有休が減った」という方、「給与が減額になった」という方、個人事業主の為自力で頑張らざるをえない方と組織の対応はそれぞれでした。社会のシステムもパンデミックを生き抜くために、今より成熟しなければ、突然の休園に慣れる事なんて誰もできないのではないのでしょうか。

そして保護者の皆さまのご勤務先の方、世の中の経営運営側の方も保育園はマスクができない乳幼児を集団で保育する場であるということにご理解いただき、休園になった場合は給与保障がある休暇を付与していただきたいと要望します。個人事業主の方には給与保障がある休暇は難しいとしても、突如園が休園になっても業務が回るシステムの工夫や速やかに届く行政の支援が整ってほしい。2回目の休園の時は「3回目を避けたい。その為にどうするか」という一心でしたが、目に見えないウィルスの前にそれが無理だった今、「4・5回目を想定し、備えてください」これが保育園の現場を代表するものとして、皆さまに伝えておかねばならないことです。私が発する言葉は、謝罪でもなく自責の念でもなく「備えてください」であるべきだと考えなおしました。

オリンピックは始まってみると、応援が楽しみです。私は弱小ですが、ソフト部所属でした。ソフトボール観戦には熱が入りました。金メダルに喜びながら「ソフトも保育園もチームワークである」と思いました。さらに拡大すると、それぞれの会社組織も日本の国も世界中もチームプレイで知恵と力を結集しなければ、この時代を生き抜けないです。より良い未来を子どもたちのために、創っていきましょう。

